

The 3rd Joint Forum of Ewha Womans University Japan Women's University, and Ochanomizu University for the Promotion of Education and Research in Science for Women in the 21st Century (Nov. 8-10, 2001)

二一世紀における女性のための科学における教育と研究の促進に向けて
梨花女子大学(韓国)、日本女子大学、お茶の水女子大学による
第二回合同フォーラムを開催

理学部化学科 教授
平野 恒夫

秋も深まった二〇〇一年一月八日、本学の理学部三号館と人間文化研究科棟で、梨花女子大学(韓国)、日本女子大学、お茶の水女子大学の三大学の理系の先生およびび学生、総勢一五八名(内、学生は一〇〇名)による「二一世紀における女性のための科学における教育と研究の促進のための梨花女子大学、日本女子大学、お茶の水女子大学による第三回合同フォーラム」が開催された。これは、お互いに学術交流協定、単位互換協定を結んでいる三女子大学が一堂に集まって、学術交流のかたわら、二一世紀の女子大学の教育・研究を考えてみよう、という趣旨で開かれたものである。

梨花女子大学は韓国の名門女子大学(学部学生数一万六千、大学院生数五千)で、本学とは平成一二年三月に学術交流協定を結んで、研究レベルでの交流を積極的に推進しようとしており、平成一二年八月の日本女子大学と梨花女子大学の第一回フォーラム(日本女子大学)、平成一二年三月の三女子大学による第二回フォーラム(ソウル)に引き続いて、今回は本学で行われた。

フォーラムはすべて英語でおこなわれたが、お互いに十分な意思の疎通が出来たかと思われる。

「二一世紀、女性が輝くとき」を標榜する本学の本田和子学長の開会の辞に引き続き、男女共同参画社会を実現するため梨花女子大学が果たすべき責務を日韓双方の基調講演三件で確認した。

本学からは平野が分子構造総合討論会での現状分析、



本学の付属高校生

の進路調査統計を踏まえて、若手の女性研究者層は厚いのに、現時点で指導的立場に立っている女性が少ないことに鑑みて、本学は、かつての東京女子高等師範学校以来の伝統に立ち返って、自立性の高い女性リーダーの育成に努めるべきであることを提言した。梨花女子大学からは Heisook Lee 前国際教育院長が韓米にまたがる WISE (Women in Science and Engineering) プログラムを紹介し、日本女子大学理学部の小尾欣一先生は、二〇〇一年に創立百周年を迎えた日本女子大学の、建学の精神に基づく女子教育の取り組みについて語

った。

引き続き、物質科学、ライフサイエンス、服飾繊維、コンピュータサイエンスと数学の四部門の総計五四編の研究発表を二日間、三会場に分けて行った。参加者(カッコ内は内数での学生数)は梨花女子大学二九名(一七名)、日本女子大学一三名(七名)、本学から一六名(七六名)であり、研究発表は二〇三頁におよぶ要旨集をもとに、活発に行われた。内容は改めて「お茶の水女子大学自然科学報告」に収録される予定になっている。

本フォーラムは、私と、増永、會川、室伏、森川の諸先生方を中心として企画実施されたもので、本学の、学長裁量経費「二一世紀における女子大学―理系教育とその課題」と、国際交流基金の支援の下に行われたことを記して感謝したい。第四回フォーラムは日本女子大学で行われることになり、小雨の中、再会を期して名残を惜しんだ。

